

産経新聞

平成26年(2014)日刊25742号

8/18 [月]



産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2014
〒100-8077東京都千代田区六手町1-7-2
☎東京(03)3231-7111 (大代表)

イスラエル軍によるガザへの大規模攻撃は、2008年の第1回、12年の第2回に続くものだ。今回の第3次ガザ戦争は、日本の終戦記念日にあたる8月15日時点でパレスチナ人に約2

存在を規定してきた3つの要因に大きな変化が起きているからだ。その第1は、安全保障を担保する軍事的要因、第2は自らの存在に関する国際的な正統性をめぐる外交的要因、第3は国民国家のアイデンティティを

しない限り戦略的に自分が敗北しないという認識がある。イスラエルはこれからも数年おきにガザを攻撃する可能性が高い。こうした情勢をたやすく展望できながら、ハマスが市民の犠牲と苦悩を利用するのは、計算し尽くした政治リアリズムの感覚があるからである。

歴史の交差点

明治大特任教授 山内昌之



ガザ、悲劇反復の理由

000人の死者を出し、イスラエル人の死者も約70人を数えている。犠牲者数のあまりの非対称に驚く人も多いだろう。理由の一端は、世界最先端の装備をもつイスラエル国家の軍隊が、

めぐる歴史的要因である。イスラエルはアラブ国家を相手にした4回の中東戦争をしのいできたが、ヒズボラ(南レバノン)やハマスなど市民を巻き込む抵抗や自爆を辞さない非国民主体の脅威は、エジプトやシ

必要だったのだ。これもイスラエルとの軍事対決を拒否しなかつた一要因である。その意味でハマスは単純なテロリストや武装闘争組織ではありえない。双方ともに国民国家を維持するか、建設しようとする強固な民族的アイデンティティを将来も失うことはない。生存権をめぐるパレスチナ人の抵抗は、たとえ難民キャンプで数世代を過ごしても深い被害者感情を失わない。それを代弁する要素がある限り、ハマスはガザの市民に犠牲を強いる自らの戦略を正當化するだろう。この点にも、ガザ戦争の悲劇が潜んでいるのだ。(やまうち まさゆき)

めぐる歴史的要因である。イスラエルはアラブ国家を相手にした4回の中東戦争をしのいできたが、ヒズボラ(南レバノン)やハマスなど市民を巻き込む抵抗や自爆を辞さない非国民主体の脅威は、エジプトやシ

必要だったのだ。これもイスラエルとの軍事対決を拒否しなかつた一要因である。その意味でハマスは単純なテロリストや武装闘争組織ではありえない。双方ともに国民国家を維持するか、建設しようとする強固な民族的アイデンティティを将来も失うことはない。生存権をめぐるパレスチナ人の抵抗は、たとえ難民キャンプで数世代を過ごしても深い被害者感情を失わない。それを代弁する要素がある限り、ハマスはガザの市民に犠牲を強いる自らの戦略を正當化するだろう。この点にも、ガザ戦争の悲劇が潜んでいるのだ。(やまうち まさゆき)